令和7年度　石川県介護現場の生産性向上に関する
伴走支援・モデル事業所育成事業

恵寿鳩ケ丘　成果報告
「見守り機器を活用し利用者の安心・安全と職員の負担軽減を図る」

本日の内容

1. 法人・事業所の概要
2. 活動内容の概要
3. 具体的な進め方
4. 活動を通じて得た気づき
5. 皆様に向けたメッセージ

1. 法人・事業所の概要

運営法人	社会医療法人財団董仙会
事業所名	介護医療院　恵寿鳩ケ丘
所在地	鳳珠郡穴水町麦ケ浦15、39番8
利用者数	126名/定員135名（2026年3月10日時点）
平均介護度	要介護　3.4
職員数	常勤75名　非常勤8名　合計83名 （2026年3月1日時点）
特徴	介護医療院とは「長期的な医療」と「介護」の両方を必要とする方を対象とした介護保険施設 それに伴い、鳩ケ丘では気管切開の方や、吸痰が必要な方など医療ケアを常時必要とする方、日常生活で援助が必要な認知症の方など幅広く入所している 特に看取りケアでは、24時間体制を整え、人生の最終段階のケアに力を入れ、利用者、ご家族に寄り添ったケアを行っている



介護医療院恵寿鳩ケ丘は穴水町の小高い山を登った所に位置し、能登空港まで車で約5分の場所です。
5階浴室からは飛行機が見え、七尾湾も眺める事ができ、景色の良い場所に立地しています。



○鳩ケ丘での取組前の現場の課題

能登半島地震後、奥能登地域での人員の確保が一層困難な状況

- 職員の高齢化
- 職員の担い手不足
- 利用者の多様化
- 既存機器だけでは不十分

○今回のモデル事業への応募のきっかけ

新しい機器を導入する事で職員の負担軽減を目指したいとの思い

- 職員の生活を守る
- 職員のモチベーションアップ
- 介護の質を下げない
- 利用者が安心して生活出来る

頑張ろう！
鳩ケ丘！！



2. 活動内容の概要

活動の目的		・職員の高齢化や担い手不足による介護の負担を減らし、サービスの質を落とさずに業務改善を行う
活動を始めたきっかけ		・ナースコールが重複した時の優先順位が分かっていない事による対応の遅れから、利用者の転倒が多い状況 ・利用者の状況を現在導入している機器だけで把握するには限界がある ・認知症利用者、看取り利用者の対応での頻回な訪室は、夜間の職員負担が大きいと職員アンケートの分析結果で分かった ・転倒件数や訪室回数を減らし、職員の精神的・肉体的な負担を減らしていくことが急務
活動の内容		・見守り機器を導入することで、利用者の夜間状況を把握し無駄な訪室回数を減らす ・定時で行っていた介護業務を、利用者の睡眠状態、バイタルを確認しながら行う ・睡眠状態に合わせて、複数の身体介護業務を一度で行えるよう個別対応していく ・現導入機器のネオスケアやテルサコールマットを含め、利用者の状況に合った機器を選別し活用しながら、**iPhone・<u>インカム</u>**にてスムーズな連携が取れるよう対応を行う
活動の成果	定量	・職員の夜間歩数 ・職員の夜間訪室回数 ・利用者の転倒件数
	定性	・職員の肉体的負担軽減 ・職員の精神的負担軽減 ・利用者の安心・安全

インカムはBONXアプリを使用

各階でのルームを作成し、
職員間でのコミュニケーション
ツールとして使用している

3. 具体的な進め方　①改善活動の準備

○活動を始めるにあたって行った情報収集

・デジタル中核人材養成研修へ介護職員1名参加（11/14～1/28で3回開催）
・東京ビックサイトの国際福祉機器展へ介護職員１名参加（10/8）
・眠りスキャンのデモ機を２週間導入（10/17～10/30）

○取組を始めるにあたって、トップから職員に対して伝えた内容やその場面

・院長から、係長以上で参加の運営会議でモデル事業に選ばれたと通達
・事務長より生産性向上委員会メンバーに伝え、具体的内容を検討
・情報共有のアプリ内で介護課長より全体に伝達

○活動を中心となって進めたメンバー

役職者（院長・事務長・介護課長・看護師長・看護介護主任・リハビリ主任）
　↓　役職者が中心となって伝達し、機器の必要性を職員全員に周知
生産性向上委員会
　↓　機器操作の周知や指導は生産性向上委員会が中心
現場職員（看護・介護・リハビリ）

3. 具体的な進め方　②現場の課題の見える化

○挙がった課題の概要

①夜間見守り
⇒端末から受ける通知が多く、優先対応する判断が難しい

②使用物品
⇒持ち歩く端末が多い
iPhone（インカム機能、内線）**iPodtouch**（ネオスケア通知）**PHS**（ナースコール連動）現状**3台**持ち

③業務
⇒職員同士のコミュニケーションが不足し、情報共有が出来ておらず、ケア方法にばらつきがある

○取り組む課題

①見守り機器使用し優先順位の把握
②ネオスケア通知を**iPhone**に連動させ、**PHS**と**2台**持ちへ移行
③一度の訪室で複数の個別ケア

課題の見える化の結果





機器導入前の使用端末種類

3. 具体的な進め方　③実行計画の策定

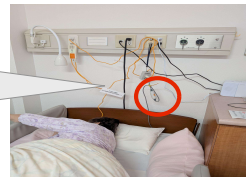
○主なスケジュール

時期	主な実施事項
2025年9月中旬	院長から活動の開始宣言、事務長からの取り組む課題の検討を伝達
2025年10月上旬	導入計画の策定、活動前の効果測定の実施、事故届の書き方の見直し、マニュアル作り
2025年10月下旬	介護課長よりteamsにて機器導入周知、眠りスキャンのデモ機導入（2週間）・データ収集
2025年11月中旬	見守り機器導入の同意書作成、データの振り返り
2025年12月上旬	本人・家族に説明、補助金申請、機器導入前のアンケート実施
2026年１月中旬	Wi-Fi工事開始、眠りスキャン導入前説明会
2026年２月下旬	Wi-Fi工事完了、眠りスキャン導入
2026年3月	1回目、２回目の効果測定、機器導入後のアンケート実施、活動全体の練り直し、今後の方針検討

○効果測定の方法

指標	測定方法	測定頻度
職員の夜間歩数	万歩計で確認	1週間、毎日
訪室件数	訪室カウント（看取り１名・センサー１名）	1週間、毎日
利用者の転倒件数	事故届件数カウント	1週間、毎日

○鳩ケ丘での既存機器の活用方法

機器の種類・台数 通知方法	対象の方	リスク	対応方法	結果
フットセンサー 9台 ナースコール連動でPHS	**端座位からの動きを把握** ・ベッド上から端座位までの動きには問題はないが、立位からの動きに見守りや介助が必要 ・転倒の危険性がある ・高次脳機能障害や認知症の周辺症状がある	大	実際に居室へ訪室し動きの把握や対応が必要  ベッドサイド立ち上がり時	床に足が付いた時に通知され、行動を起こす前に訪室する事で転倒予防が出来る  壁側から出入りした時居室に入られた時
ネオスケア 13台 iPodtouch	**ベッド上やベッド周囲での動きを把握** ・居室での生活動作に見守りが必要 ・ベッド上で体動がある ・転倒の危険性がある	中	画面上での動きを確認把握。必要に応じて訪室 ベッド周囲の動きを感知   iPodtouchで通知	個々に合った通知設定をする事で行動の把握が出来、転倒予防が出来る。動画をさかのぼって見る事が出来る NSセンター内パソコン画面上の映像 
テルサコール 10台 ナースコール連動でPHS	**ベッド上での動きを把握** ・移乗動作に見守りや介助が必要 ・ナースコールが押せない ・ベッド上で体動がある ・ベッドからの転落歴がある ・転倒の危険性がある	小	実際に居室へ訪室し動きの把握や対応が必要 コールタイプマット（コール連動ではない通常マットもあり） 	ベッド上での体動段階で訪室出来、端座位から次の動作まで見守りする事が出来、転倒予防が出来る 手元スイッチでオンオフ操作可能 

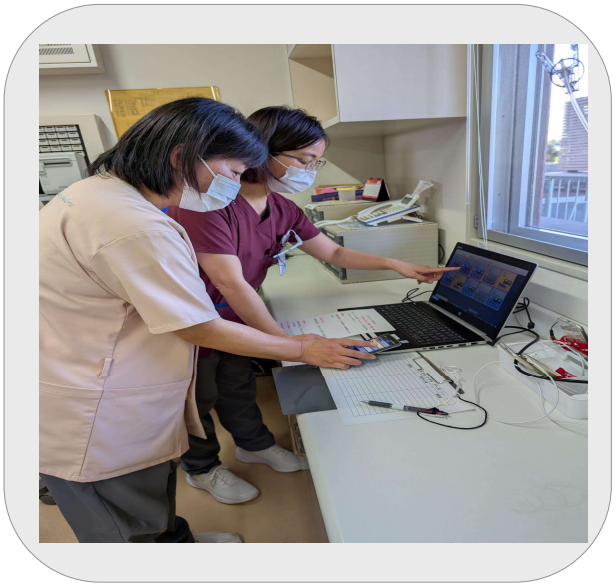
3. 具体的な進め方　③実行計画の策定＜導入した介護テクノロジー＞

○導入した介護テクノロジーの名称

・**眠りスキャン**（マットレスの下に敷くだけで、身体に何も装着せずに睡眠、覚醒、起き上がり、離床などの状態をリアルタイムに感知。記録が出来る）
・**眠りスキャンeye**（眠りスキャンと連動し、カメラで利用者の状況を確認できる

○社名

パラマウントベッド



眠りスキャンデモ機導入

○選定理由

・バイタル把握や夜間の睡眠状況を把握でき、利用者の個々に合った時間で必要介助が行える為
・10月にデモ機導入し、機械の操作も簡単で使いやすかったと職員からの意見があった為

○特徴

・フロアのどこにいてもiPhoneで受信し、画面上で確認する事が出来る
・寝ている状態と起きている状態が色分けで分かりやすい
・個々に合った通知設定ができ、必要な時に訪室出来る



3. 具体的な進め方　④改善活動に取り組む

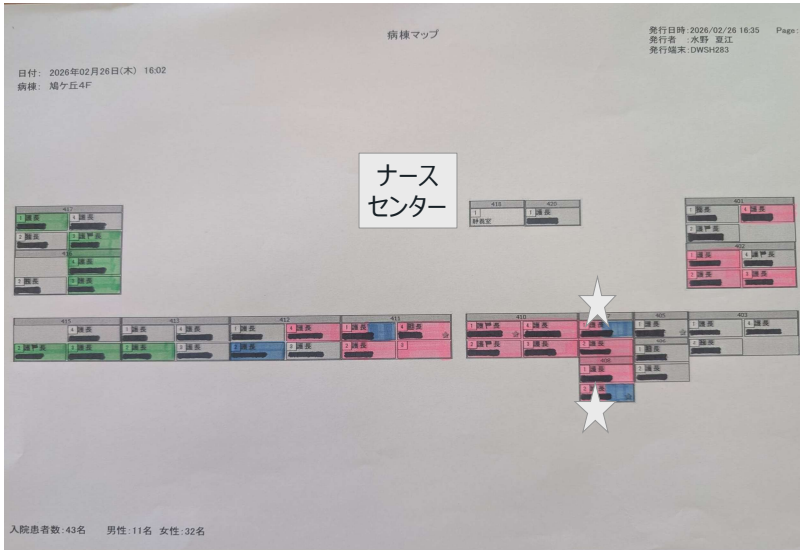
○職員向けの研修会

・パラマウントベッドの方に説明会を開催して頂く
・Zoomで繋げ、自宅やフロアからも視聴
・録画機能を使用し、後日でも視聴可能

○対象の階と利用者設定

・2階3階は看取りの方や居室での行動把握が必要な方**各20**名
・4階は居室での行動把握が必要な方**17**名
・カメラは転倒リスクが高い方対象に3階に**2台**、４階に**2台**設置

○鳩ケ丘4階フロアマップ　眠りスキャン導入後の各種機器使用状況



ピンク色　眠りスキャン
青色　テルサコールマット
緑色　ネオスケア
☆ 眠りスキャンeye設置部屋

眠りスキャン説明会の様子



医療設備	医療度	介護度	鳩ケ丘
少ない	低い	同じ	浴室
			4階
			3階
			2階
多い	高い	同じ	デイケア

眠りスキャン設定基準

○鳩ケ丘既存機器の応用方法（Aさんの例）

機器の種類 通知方法	対象の方	リスク	対応方法	結果
テルサコール マット＆フット センサー どちらもPHS	**居室での動きや体調把握** ・起立性低血圧により血圧変動がある ・癌の進行により状態変動がある ・行動が読めず転倒リスクが高い	大	ベッド上での体動と端座位での通知で訪室し症状や状態を把握	病的な事により体動が激しくなれば通知が多く、状態変化に伴って必要な介助が出来る 転倒を予防する事が出来る

○導入機器　眠りスキャンの活用方法

機器の種類・台数 通知方法	対象の方	リスク	対応方法	結果
眠りスキャン eye　4台 iPhone	**居室での動きの把握** ・眠りスキャンと併用で使用 ・転倒の危険性が著しくある ・認知症がある　等	大	カメラで居室内の動きを把握し、必要なタイミングで訪室	カメラで動きの確認をすることで転倒リスクの高い方の行動把握が出来、転倒予防する事が出来る
眠りスキャン 57台 iPhone	**バイタル把握・睡眠状態把握・行動把握** ・看取りの方の状態把握 ・おむつ触りがある ・睡眠状態を確認したい ・転倒の危険性がある	中	画面上でバイタル確認や動作の通知で状況を把握 必要に応じて訪室	看取りの方のバイタル測定がリアルタイムで分かり訪室回数が減る 夜間は覚醒の状態の時におむつ交換を行い衣類汚染が減る 通知後に訪室する事で転倒予防が出来る

○機器導入後のオペレーション変化

・iPhone・インカムでの情報共有ツールが不可欠となり、業務に入る前に必ず装着するようになった
・機器の通知での対応や、アクシデント発生時等、フロア毎のインカム使用で伝達する事が定着した
・業務効率が上がり、空いた時間にLIFE入力や口腔ケア管理入力など他の業務が出来るようになった
・既存機器は転倒の危険がある方が対象だったが、眠りスキャンは脈拍・呼吸数が測れる為、寝たきりの方も使用でき機器使用の幅が広がった
・鳩が丘の身体拘束適正化検討委員会内で、転倒に繋がる対象者で眠りスキャン使用の方の状況確認を行っていく事とした
・業務の見直しを行い、月曜日から土曜日の午前・午後と行っていた入浴を、水曜日と土曜日の午後は入浴をなくした→職員の年休消化や、レクリエーション活動の時間に当てている

○補足ですが・・・

※2/12・13　大王製紙の方におむつのモニタリングに入って頂き、尿測の実施、当て方の研修会を行った
個々に合った適切なおむつの当て方や使用パットの検討で尿漏れや不快感が減り、おむつ触りが減っている
夜間は覚醒通知でおむつ交換も実施しており、衣類汚染が減少して、利用者・職員共に負担軽減となっている

3. 具体的な進め方　④改善活動に取り組む



○具体的な成功事例



誤嚥のリスクのある方に対して、常時ギャジアップが必要な時にベッドの背角度を遠近で確認出来るため、訪室せずに業務が効率化した

フットセンサー使用の方に「起上」の設定通知にした事で、体動把握ができ、転倒予防が出来ている。フットセンサーが外せるようになった



夜間トイレまで車いす自力駆動されている方で遠慮してナースコールを押されないが、転倒リスクもあり、「離床」を設定。トイレに着いた頃に向かい、介助を自然に行えた

モニターで生存確認ができ、安心できる



リハビリを誘いに行く際に、居室で寝ているか起きているかが確認出来るので効率が良い

○活動を通じて苦労したこと

職員間で機器の見方や活用方法に差がある

個々に応じた設定が難しい。特に、呼吸数でのアラームが鳴らず、何度も様子を見に訪室した

○解決方法と結果

カンファレンスで睡眠状態の事例を共有し活用方法を話しあう事で理解を深めた
日々活用する事で、意識が高まった

呼吸数の設定を20⇒15に変更し、吸痰が必要なタイミングでの通知にした

3. 具体的な進め方　⑤改善活動を振り返る

○効果の測定結果

指標	測定前	中間結果（2026/3/10）	最終結果（2026/3/17）
職員の夜間歩数	平均**11460歩**/夜勤１回	平均**12933歩**/夜勤１回 （新規入所２件あり増加）	平均**9205歩**/夜勤１回
職員の夜間訪室回数	平均**10回**/夜勤　看取り1名 平均**11回**/夜勤　センサー1名	平均**8回**/夜勤　看取り1名 平均**4回**/夜勤　センサー1名	平均**7回**/夜勤　看取り1名 平均**4回**/夜勤　センサー1名
利用者の転倒件数	**5件**/1週間	**2件**/1週間	**2件**/1週間

○結果のまとめ

- 夜間歩数は中間で2件の新規入所があり、確認の為何度か訪室し歩数が13%増えたが、最終では利用者の把握や職員も慣れてきて数値が下がった
- 夜間の訪室回数では看取りの方はモニター確認して訪室し、吸痰やおむつ交換など複数のケアを同時に行い訪室回数が減った
- センサー使用の方はカメラ付きの部屋で行動が把握でき、起き上がりの時の訪室で済むことが出来た
- 転倒件数は個々に合った通知設定を行う事で居室での転倒件数は減った

【最終結果】

歩数　19.7%減

訪室回数　看取り　30%減

訪室回数　センサー　63.6%減

転倒件数　60%減

全ての指標で減少！！

生産性向上モデル事業に関するアンケート

○機器導入前後のアンケート内容

第1回　生産性向上モデル事業に関する職員アンケート（機器導入前）

皆さんの業務負担についてお伺いします。当てはまる数字に○を付けて下さい。

①居室内の様子が分からずに、認知症利用者の動きの把握・対応が難しく転倒件数が多いと感じますか？

1非常に多い	2多い	3少ない	4非常に少ない	

②看取り利用者の状況把握や医療処置の為、訪室回数が多いと感じますか？

1非常に多い	2多い	3少ない	4非常に少ない	

③夜間ナースコール対応やセンサー対応で訪室回数が多いと感じますか？

1非常に多い	2多い	3少ない	4非常に少ない	

④夜勤勤務時間の精神的な緊張度合を4段階表示の中で選んで○を付けてください。

1非常に多い	2多い	3少ない	4非常に少ない	

⑤夜勤勤務時間の肉体的な緊張度合を4段階表示の中で選んで○を付けてください。

1非常に多い	2多い	3少ない	4非常に少ない	

業務負担に関しての自由コメント欄

ご協力ありがとうございました。

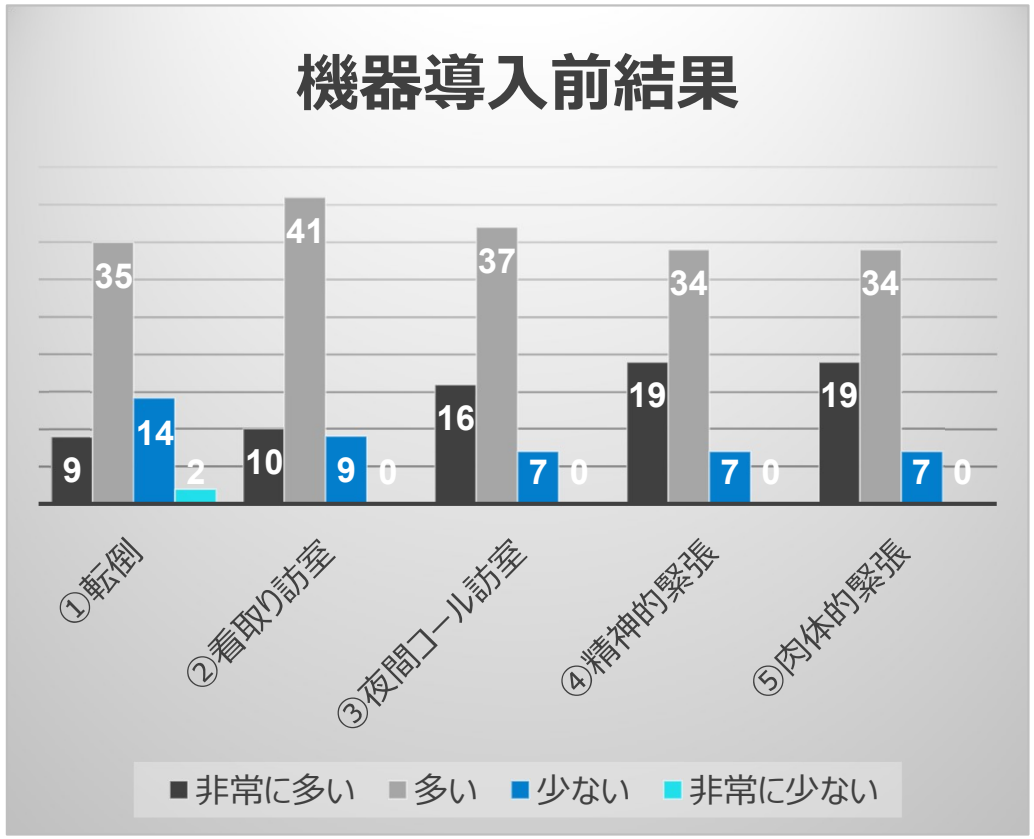
機器導入前自由コメント内容

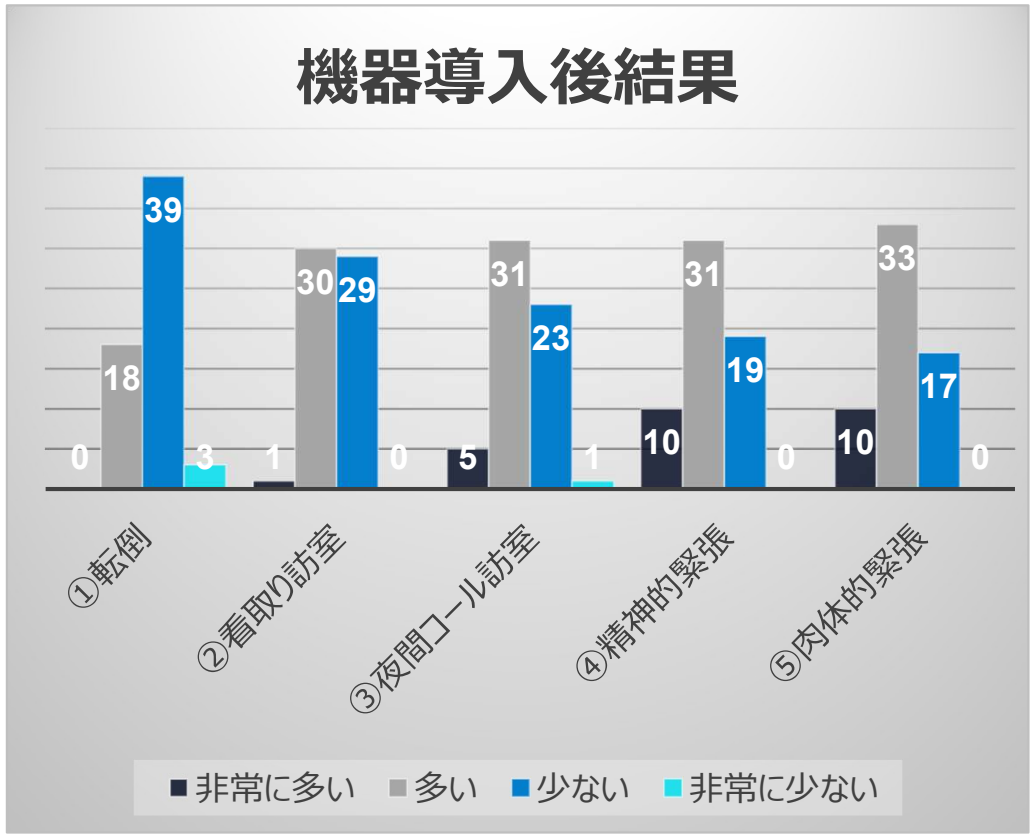
・PHSが少ない（各階2台）
・朝9時のおむつ交換の途中（スタッフが少ないく忙しい時間帯）に面会依頼があると準備や面会スペースまでの送迎が大変だと思うことがある
・一番端の居室には電波が届きにくく、iPhoneが繋がらない時がある

機器導入後自由コメント内容

・起き上がり通知の設定でナースコールが多くなる利用者もいるが、行動が分かる為精神的緊張は少なくなった
・導入前に比べれば負担が少なくなっている
・モニター確認できる利用者は訪室回数が減った
・モニター数が少なく、全体の業務負担が軽減したかといわれたら感じずらいものがある

機器導入前後のアンケート結果





○アンケート結果まとめ

・アンケート内容①～⑤　全てで「非常に多い」「多い」が多数の結果となり、特に夜勤の業務は精神的・肉体的に負担であると感じた

・生産性向上委員会内では機器導入で介護負担減となる事を目的に、しっかりと取り組んでいく事を、再度共有した

○アンケート結果まとめ

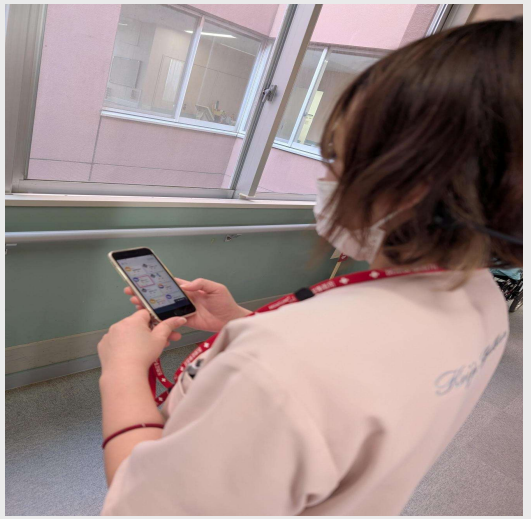
・アンケート内容①～⑤全体的に「少ない」が多くなり、眠りスキャンを導入した事で、職員の負担が減少している事が分かる

・精神的負担、肉体的負担は「非常に多い」と感じている方は一定数おり、今後も改善が必要と感じた

3. 具体的な進め方　⑥実行計画を練り直す

○継続すること

- モニター確認で訪室回数を減らす
- インカムでの職員間のコミュニケーションツール
- 睡眠状態を踏まえた個別ケア
- 呼吸数、心拍を確認し必要なタイミングでの訪室
- 睡眠日誌を確認し、夜間の睡眠状況の把握



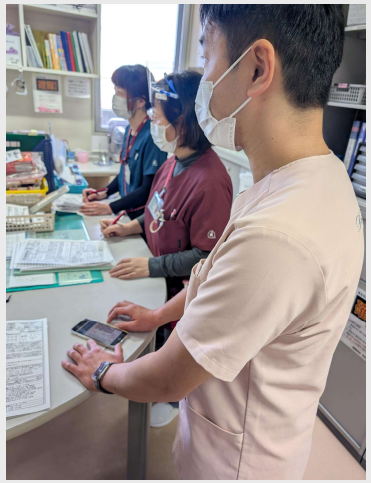
iPhoneで通知を受ける様子

○新しく取り組むこと

- 個々に合ったアラームの見直し、対象者の評価
- 個々のデータを活用した、個別ケアの強化
- **毎日のミーティング時間に眠りスキャンカンファレンスを実施**
- **担当者会議で睡眠日誌を確認・多職種で話し合いを行いケアプランに反映**

担当者会議の様子





4. まとめ

○取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと・変化

【気づいたこと】

- 離床や覚醒のタイミングが可視化され、根拠を持ったケアにつながると分かった
- 個々の睡眠パターンの違いを把握でき、個別ケアの必要性を実感した
- 心配からくる巡回を減らすことができ、夜間の見守りの安心感（安心材料）に繋がった
- 機器を活用しながらも実際の観察や声掛けなど「人のケア」も大切であると実感した
- 今までは自分たちの業務の流れでケアを行っていたと、改めて考え直すきっかけとなった

【重要と感じたこと】

- データを見るだけでなく、ケアにどう活かすか？を考えること
- 情報を職員間で共有し、チームでケアを考えること
- 入所者の生活リズムや安心につながる視点で活用していくこと

【変化】

- 夜間の安眠により、利用者の日中離床時間が増え、日課などの活動量が増えた
- 利用者は日中談話室で過ごす時間が増え、職員とコミュニケーションの時間が増えた
- 職員は訪室の回数が減る事で、日中の活動のケアに注力する事が出来た

5. 皆様にむけたメッセージ

○介護テクノロジーの導入を検討している方に伝えたいこと

U字の法則（一時的な低下はあるけど慣れてくると急上昇する）を信じて進めていく事が大切
機器を使いこなせなくて時間がかかる、一部の職員から不満が出るなどは必ずある
しかし、役職者や生産性向上メンバーは『断念しない』
小さな成功エピソード「この機器があって、介助が楽になった！」「こんな場面で訪室が減った！」をひとりでも多くの職員に実際に体験してもらい、小さな成功体験を積み重ねることで機器に慣れ、職員の精神的負担、身体的負担も軽減していく
そして施設全体が同じ方向性で取り組むことが成功へとつながるはず、心ひとつに頑張りましょう！！













日中の活動の様子

○眠りスキャン導入から2か月経過して

職員の変化

- フロア職員ほぼ全員が眠りスキャンに慣れ、インカムでの情報共有が更に定着した
- 通知設定の音を分かりやすいように変更し、職員がすぐに反応出来るようになった
- 1時間に１回行っていた夜間巡視は必要時だけとなった

パラマウントメゾット研修に参加した後の変化

・ パラマウントベッドのアフターサービス（パラマウントメゾット研修　合計4回） １回目が終了。アドバイザーから設定機能を学び、利用者の設定見直しを行った
・手探りで行っていた通知設定から、根拠を持った設定が出来るようになった
・眠りスキャンの機能や特性を理解する事で、日誌機能から個別ケアへ繋げれる回数が増えてきた

機器の変化

・ 眠りスキャンとネオスケアのアプリをiPhoneに一本化した事で、端末3本持ちから2本持ちに減りスムーズに通知確認が出来るようになった
・ 現場で使用しているインカム機能付きiPhoneのイヤフォンが、全て骨伝導イヤフォンに変更し、断線の心配がなくなった

○鳩ケ丘平均残業時間（機器導入前・導入後）

平均残業時間時間数					
	2023年11月	2024年11月	2025年11月	2026年3月	2026年4月
看護	8分	11.5分	15.7分	11.2分	10.1分
介護	1.4分	30.9分	1.3分	7.7分	6.1分

鳩ケ丘は通常の勤務では、ほぼ残業がなく欠員や感染対応をしている時のみ

ケアの質と夜勤帯の職員の業務負担、休息時間の確保に注力

見守り機器を活用し利用者の安心・安全にと職員の負担軽減を図る

○鳩ケ丘2026年度計画

2025年　見守り支援機器　：　ネオスケアやテルサコール導入
情報伝達　：　インカム、iPhone・PHS導入
運用方法　：　不十分　アラート発生後に都度訪問
特に夜間の業務負担増

今回の事業　見守り支援機器　：　眠りスキャン、eye（カメラ）機能　追加導入
情報伝達　：　セキュリティ上安全なネットワーク環境の構築
今後の見守り機器台数増加に備える
iPhoneに各種アプリのインストール可能
見守り支援機器等のアプリ整理
運用方法　：夜間の業務負担軽減

2026年　見守り支援機器　：　台数増
情報処理　：　電子カルテ（ノートパソコン＆iPhoneにモバイル電子カルテ）
記録時間の短縮、AIの活用
目指すところ　：LIFEのフィードバックデータをAIでまとめ、ケアプランに生かす
ケアの質の向上と職員の休憩時間の確保を図る

ご清聴ありがとう
ございました



恵寿マスコットキャラクター
ポッポちゃん